

二次交通のご案内

タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ●益子タクシー ☎0285-72-2134 ●新光タクシー ☎0285-72-7700 ●七井タクシー ☎0285-72-2411
レンタサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ●真岡鐵道益子駅 ☎0285-72-2511 ●エビコーサイクル ☎0285-72-3155 (陶器市開催中不可)
レンタカー	<ul style="list-style-type: none"> ●高島油店 ☎0285-72-3000 ●益子館里山リゾートホテル ☎0285-72-7777 ●矢島自動車 ☎0285-72-3477
乗りすてできる レンタサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅ましこ ☎0285-72-5530 ●益子焼窯元共販センター ☎0285-72-4444 ●吉村農園 (12月～5月) ☎0285-72-8189 ●Gallery MUYU ☎0285-85-8617 ●益子町観光協会 ☎0285-70-1120

宿泊のご案内

ペンション、ホテル、民宿など旅のスタイルに合わせた宿をお選びください。

観光ボランティアガイドましこをご利用ください



見所いっぱい『ましこ』を、地元に通じた達人「観光ボランティア」が皆様をご案内。文化・歴史・風土をわかりやすくガイドいたします。

宿泊及び観光ボランティアガイドの問い合わせは

益子町観光協会

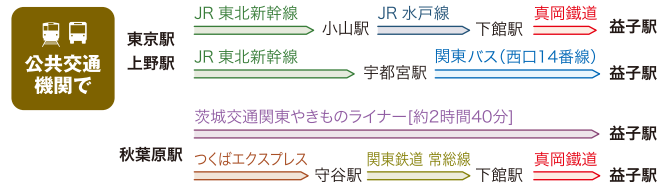
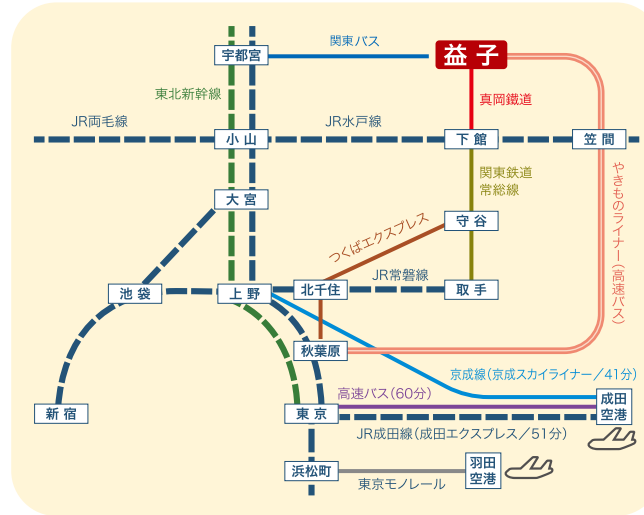
☎0285-70-1120 <http://www.mashiko-kankou.org>

マシコット



益子の豊かな自然を表す緑色の手のひらの形に、街を代表する益子焼の陶器がデザインされています。町の人たちが手を取り合い、未来へ力強く歩き出す姿を表しています。

益子までのアクセス



発行・お問い合わせ
 益子町産業建設部観光商工課
 〒321-4293 栃木県芳賀郡益子町益子 2030
 ☎0285-72-8846 FAX 0285-70-1180
 Email: kankou@town.mashiko.lg.jp
 Website: <http://www.town.mashiko.tochigi.jp/>

益子 回廊

ましこ観光ガイド



ようこそ、 歴史と陶器のまち、益子へ

関東平野の北、栃木県の南東部になだらかに広がる益子町。四季折々の自然と、ゆるやかな起伏の山に育まれたこの土地では、やきものの原料となる良質の陶土を産出します。手のひらで包むと、土のぬくもりがじんわりと伝わってくるやきものは、“益子焼”として日本のみならず、海外にも知られるようになりました。また民芸運動の拠点として、昔から内外の陶芸家を受け入れてきた進取の気性に富む土地柄も大きな魅力です。長い間培われてきた歴史と文化、豊かな自然に触れるたび、益子の奥深さを味わえることでしょう。

益子焼とは



江戸時代末期、笠間で修業した大塚啓三郎が窯を築いたのが始まりとされます。当初は主に鉢、水がめ、土瓶といった日用品の産地として発展しました。1924年、濱田庄司がこの地に移住し、「用の美」に着目した柳宗悦らと共に民芸運動を進めると、地元の工人たちに大きな影響を与え、益子焼は芸術品としての側面も持つようになります。現在、窯元は約250、陶器店は約50。若手からベテランまで、多種多様な陶芸家たちの作品がそろう。

益子焼の製造工程

土もみ

荒もみと小もみを繰り返し
ゴミや空気を取り除く

成形

ロクロや石膏を使った型抜きで
形を整え乾燥させる

素焼

絵具や釉薬の吸収をよくするため
700～800℃の窯で焼く

装飾

鉄やコバルトなどの鉱物を含んだ
絵具や釉薬で模様を施す

焼成

登り窯に赤松を焚き、約24時間かけて
1200～1300℃で焼き上げる

窯出

約2日間冷ましてから窯から取り出す。
期待と緊張が入り混じる瞬間

城内坂通り

陶芸の街、益子のメインストリート。益子駅から徒歩15分程度の城内坂交差点から東に約500m続く。歩きやすく整備されたゆるやかな坂の左右に、カフェやギャラリーのほか、個性豊かな益子焼の販売店約30軒が軒を連ねる。軒先に並べられた陶器を見て回るだけでも楽しい。



陶器市

毎年春のGWと、秋の11月3日前後に開催され、春秋あわせて約60万人が訪れる益子最大のイベント。期間中は約500のテントが立ち並び、様々な益子焼が通常より安く販売される。新進作家や職人さん達と直接会話を楽しめるのも魅力。地元農産物や雑貨なども購入できる。



陶芸体験

たくさんの窯元で、気軽にオリジナル作品をつくれる陶芸教室が開催されている。本格的なろくろ回しや、自由な形で器をつくる手びねり、好きな絵柄を描ける絵付けなどが体験できる。所要時間は40分～2時間程度。1人から家族連れ、団体客まで受け入れている。





益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子

土地に息づく手仕事の粋にふれる

多くの文化人に愛され、作芸の場となってきた益子。人間国宝の濱田庄司や島岡達三の作品や、栃木県の無形文化財に指定されている草木染技法など、今の益子を築き上げてきた先人たちの軌跡をたどると、この土地に息づく“手仕事の精神”を感じることができま

す。益子の粋を集めた見学施設は、私たちの日常に新たな発見をもたらしてくれるでしょう。



益子陶芸美術館／陶芸メッセ・益子

濱田庄司や島岡達三といった益子を代表する陶芸家の作品を常設展示するほか、さまざまな企画展を開催。敷地内には濱田の旧宅が移築され、生前愛用していた登り窯が復元されている。入館料一般600円、月曜休、開館時間9時半～17時（11月～1月は16時まで）。

☎0285-72-7555 <http://www.mashiko-museum.jp>



日下田藍染工房

（県指定文化財：建物／県指定無形文化財保持者：9代目当主日下田正氏）

江戸時代・寛政年間（1789～1801）創業の藍染店。かやぶき屋根をL字型に配した築215年を越える鉤屋造りの建物内には、72もの藍甕が整然と並ぶ。「ジャパンブルー」「広重ブルー」とも呼ばれる藍染を伝統的技法で守り伝えている。見学自由。月曜休。☎0285-72-3162

濱田庄司記念益子参考館

濱田庄司の作陶の場だった自邸・工房の一部を活用した展示館。自身の作品のほか、氏が自ら蒐集・参考とした諸外国の工芸品や、親交のあった河井寛次郎、バーナード・リーチらの作品等を展示している。入館料一般800円。月曜休。開館時間9時半～17時。☎0285-72-5300

<http://www.mashiko-sankokan.net>



つかもと美術記念館

窯元「つかもと」で学び巣立った著名な陶芸家や、世界的版画家・棟方志功など、交流のあった巨匠たちの陶芸作品や美術工芸品を展示。明治期の豪壮な庄屋造りの建物で益子焼の歴史の一端を再現している。入館料一般300円。木曜休。開館時間10時～16時（土日祝）11時～15時（平日）☎0285-72-3223 ※完全予約制 <http://www.tsukamoto.net/museum/>



ワグナー・ナンドール・アートギャラリー

ハンガリー出身の彫刻家、ワグナー・ナンドールの作品を展示する。毎年春と秋2回、各1ヵ月間の定期展を開催。生前の創作活動の拠点だったアトリエや学生寮、茶室なども見学できる。入館料一般1500円。月曜休。開館時間10時～16時。定期展以外は不定休、要予約。☎0285-72-9866 <http://www.wagnernandor.com/>





益子の春は、“春告げ鳥”ウグイスの鳴き声で始まります。そして卯月四月となれば街のここそこで枝を広げた桜が一斉に花開き、うららかな風が吹く中、「春の陶器市」が開催されます。



SLの煙が薫風にたなびき、緑深まる雨卷山のふもと。山ゆりの白い花が開くと、祇園祭のお囃子が流れ出します。晩夏には大輪のひまわりが大地を埋め尽くします。

おすすめ
コース1

益子の風に乗って歩く
ゆったり時間



ランチは
ビルマ汁♪

日下田藍染工房・陶器店・
雑貨店・アンティークショップ・パン屋・・・

益子参考館



陶芸体験に
心ときめく



JA益子
直売所

酒蔵見学

START

ひまわり畑



城内坂散策

車
約5分

車
約5分

車
約5分

GOAL



西明寺



西明寺 (国指定重要文化財: 楼門、三重塔、本堂内厨子)

奈良時代737年建立の坂東三十三観音霊場のひとつ。自生するシイの巨木に覆われた石段を登ると、かやぶき屋根の重厚な楼門が迎える。左手に三重塔と鐘楼が並び、右手に「笑い閻魔」で親しまれる閻魔堂が建つ。本堂には応永元年(1394)と記された貴重な厨子と共に、鎌倉時代の仏像が安置されている。拝観自由。本堂内陣のみ拝観料300円。☎0285-72-7373 <http://fumon.jp/>



綱神社 (写真左/国指定重要文化財)・大倉神社 (写真右/国指定重要文化財)

綱神社は鎌倉時代初期に宇都宮朝綱が土佐の賀茂明神を迎えて創建した。大倉神社は平安時代807年の創建と伝えられ、現在地西北の愛宕山から、綱神社の摂社として境内に移された。どちらも美しい曲線のかやぶき屋根を持ち、質素な佇まいに歴史を感じさせる。☎0285-72-3101 (生涯学習課)

中世の息吹を感じる古刹古社を巡る

焼物の里として有名な益子ですが、町には東日本では珍しい中世に創建された国指定文化財がいくつも残されています。高館山中腹にある西明寺では、室町時代の楼門や三重塔が悠久のときを刻み、宇都宮氏の祈りの場となった大羽地区には、地藏院や綱神社が静かに鎮座します。草木の香りに包まれながら、遙かなる歴史に想いを馳せるのもよいでしょう。



地藏院 (国指定重要文化財: 本堂)

大羽地区をおさめていた宇都宮朝綱が隠居するにあたり建立した尾羽寺の阿弥陀堂に始まると伝えられる。室町末期の建立と推定され、側柱は角柱、内部は円柱の優美な入母屋造りとなっている。境内にある天然記念物の糸ヒバや樹齢500年余の菩提樹も見所。

☎0285-72-3101 (生涯学習課)



宇都宮家の墓 (県指定史跡)

宇都宮家三代朝綱は、地藏院を建造してまもなく初代宗円、二代宗綱の墓を築き、この地を宇都宮家の墓所と定めた。三十三代正綱まで代々埋葬されている。鎌倉初期から大正時代にわたる宇都宮氏の墓地造営は全国にも例が少ない。

☎0285-72-3101 (生涯学習課)

円通寺 (国指定重要文化財: 表門、県指定文化財: 一切経塔)

かつて金沢文庫や足利学校と並び、日本三大学府として名を馳せた大沢文庫があった寺。貴重な書籍や經典を有し、38棟の学生寮が存在した。その面影を伝える「一切経塔」は江戸時代1809年に再興された趣深い建物。前に寝そべる涅槃釈迦像との対比が面白い。☎0285-72-2724



小宅古墳群 (県指定史跡: 1~18号)

亀岡八幡宮西方に分布する見晴らしの良い古墳群。前方後円墳6基、円墳29基からなり、うち1~18号が県指定史跡。6世紀後半から7世紀代の築造と推定されている。地元の人々により200本もの桜の植樹や菜の花の栽培がおこなわれ、春には丘一面が黄色く染まる。

☎0285-72-3101 (生涯学習課)





祇園祭

毎年7月23日～25日に行われる益子最大の祭り。期間中は関東三大奇祭の御神酒頂戴式や屋台巡行、手筒花火などが斎行される。



御神酒頂戴式

1年365日になぞらえ3升6合5勺の大盃に注がれた熱燗3杯を、次の当番町の男衆10人が飲み干し無病息災を祈る。

手筒花火

直径20cm長さ90cmの筒を両手で持ち、空に向かって7mもの火の粉を豪快に噴き上げる。打上げ者の熱い思いが光る。



益子地区(新町、田町、内町、城内、道祖土と瑞地区の合計6地区)から繰り出した屋台が通りを練り歩く。

益子の

祭



あじさい祭り

約5000株が咲き誇るあじさい公園太平神社で毎年6月24日から開催。期間中は4人の稚児が巫女に扮しあじさいを奉納する献花祭や、益子焼で制作された陶板大神輿の渡御、境内の茅の輪くぐりや大祓式などが行われ、公園内に飾られた約500の提灯が幻想的に花を灯す。

伝統の中に 新しい風が吹くまつり

益子には、昔から伝わる伝統的な祭り、新しく生まれた祭りがあります。鹿島神宮境内にある八坂神社の祭礼として始まった祇園祭では、江戸時代から伝わる町指定の民俗文化財「御神酒頂戴式」やフィナーレを飾る「御上覧」と呼ばれる屋台の神前奉納の儀に加え、平成17年からは地元有志の「下野手筒会」による手筒花火が始まりました。新旧の風がひとつとなり受け継がれています。



芦沼獅子舞

通称「芦沼のササラ」と呼ばれる獅子舞。約900年前、芦沼御館山に屯した八幡太郎義家に、勇壮な舞を披露したと伝えられている。



山本太々神楽

明治初期に地元有志が真岡市大前神社より伝承し、鹿島神社の例大祭に行われる。昭和45年に復活し現在は11演目を上演する。



綱神社太々神楽

幕末より受け継がれる茨城県筑西市(旧協和町)小栗内外神宮伝承の神楽。上大羽地区の綱神社にて秋の例大祭に奉納される。





益子の伝統を紡ぐ子孫が語る

2人の 人間国宝

Interview



濱田 庄司

(はまだ しょうじ、1894～1978)
神奈川県川崎市出身。民芸運動を推進した陶芸家。1920年バーナード・リーチと共に英国セント・アイヴスに築窯。帰国後、益子町に移住。1955年第1回重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。1964年紫綬褒章、1968年文化勲章受賞。

島岡 達三

(しまおか たつぞう、1919～2007)
東京都港区出身。独自の「縄文象嵌」の世界を築いた陶芸家。1946年濱田庄司門下となる。1962年日本民藝館賞受賞。1996年民芸陶器・縄文象嵌で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。2002年栃木県名誉県民第1号を授与。

生活と一体となった作陶スタイル

「孫にやさしく、私は遊び感覚で自然に作陶の楽しみを教えてくださいました。生活にモダンな感覚を取り入れ、移築した益子の民家を、自分の感性に合った形で自由にデザインし直していました。終始一貫して“良い生活をしていれば良いものも生まれる”という感覚を持ち続けていたと思います」

英国生活で習得した国際感覚

「祖父が20代半ばの頃、英国のセントアイヴスに招かれ工房を開きます。ロンドン近郊のディッチリングというデザイナーの村も訪問しますが、その方々の健康的で自然な暮らしぶりやデザインされた生活環境は、学ぶものも多かったようです。帰国後は、その影響を丸ごと受けるのではなく、日本文化に必要なものだけ西洋文化を足していきました」

益子のおかげで自分がある

「手工芸に非常に高い関心を寄せていた中、憧れの存在である柳宗悦に出会い、先輩の河井寛次郎と3人で民芸運動を始めます。ですが「俺が益子を変える!」と意気込んでいたわけではありません。『益子は本当に純粋な田舎で、優秀な職人が黙々と仕事をしていて非常に勉強になる。自分が益子に合わせれば、自分の仕事が成せる。益子のおかげで自分がある』と、同じ目線で仕事をしていたことが相乗効果となったのだと思います」

受け継がれ発展する濱田の伝統

「今後は、庄司や父・晋作が作り上げてきた濱田窯の伝統を活かしていきたい、という思いが根にあります。また、参考館としても以前の玄人好みな展示から、よりわかりやすい展示にすると同時に、さまざまなイベントや企画を織り交ぜて、多角的に活動を広げていきたいと考えています」



濱田 友緒 (はまだ ともお、1967～)
濱田晋作の次男、濱田庄司の孫として益子町に生まれる。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業、同大学院美術研究科修了。2012年、公益財団法人濱田庄司記念益子参考館館長に就任。国内外の美術館や学校にて講演会、展示会等を毎年行う。

民芸の美への目覚め

「祖父が陶芸家を目指したきっかけは日本民芸館でした。そこで親しみやすく、使いやすく、力強い、健康的な“用の美”にショックを受けて、民芸に絞ったのだと思います。戦後に濱田先生に弟子入りますが、戦争中でもビルマで同じ部隊にいた益子出身の方と焼物を作ったり粘土を探したりしたそうです」

独自の技法“縄文象嵌”

「30歳の頃、祖父が勤めていた窯業指導所で縄文土器の複製の依頼がありました。濱田先生は『自分の仕事を見つけて下さい』という教えて、祖父の実家は東京の愛宕で4代続く組紐師だったので、その時に組紐と朝鮮李朝の三島手を組み合わせた縄文象嵌技法が生まれました。濱田先生との一番の違いは縄文象嵌を軸に“灰被”を展開したこと。灰被とは釉薬をかけずに素焼きのまま窯に入れ、薪の灰が器体に付着してガラス化するという技法で、備前、信楽、丹波等が有名です。この技法は、祖父が益子に持ち込んだものです」

地道な変化を楽しむ

「草花文が祖父の代表的な文様ですが、最初の頃とは全然格好が違います。とにかく地道な人だったので、長い間同じことを続けていく中で、徐々に変わっていく変化を楽しんでいました。作陶中の草花文と見比べて『昔のも面白いな』なんて言っていましたから。最晩年は若い頃の非常にシャープな絵柄とは全く違う趣になりました」

島岡窯のこれから

「縄文象嵌は技法として確立しているので、現在は釉薬や焼き方を変えるなど色々テストしながら自分のアレンジを加えています。米国でデモンストラーションも行いました。刺激的で楽しかったので、今後はそうした活動も増やしていければ良いなと考えています」

島岡 桂 (しまおか けい、1978～)
日本画家の筆谷等とガラス工芸作家の筆谷淑子の次男、島岡達三の孫として益子町に生まれる。栃木県立窯業指導所伝習科卒業。達三の門下で6年間修行後、2005年に達三の養子となる。国内各地で個展開催。2015年に米国で実演会を行う。





錦おりなす紅葉と、一面のコスモス畑。
秋の深まりと共に、里山は艶やかに色彩を増していきます。
市や祭りで華やぐ往来に、美しいふるさとの風情が漂います。



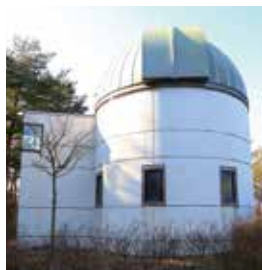
清らかな冷気に、窯の煙が色濃く立ちのぼる里。
須田ヶ池を薄氷が覆い、小貝川には白鳥が降り立ちます。
そして、梅がほのかに香る中、雛めぐりが華やかな雰囲気醸し出します。





恵み豊かな自然を五感で楽しむ

雨巻山から流れる川とゆるやかな丘、田園が広がる大地と広い空。四季に恵まれた益子では、その風土を生かした農業も盛んに営まれてきました。中心部から少し足を延ばせば、豊かで懐かしさを感じさせる里山の景色が広がります。果物狩りなどの農業体験はもちろん、鮮やかに移ろう景観の中で体験する登山や天体観測、レジャー・スポーツは、私たちの五感を大いに刺激してくれるでしょう。



天体観測

県立自然公園「益子の森」内にあるドーム型施設「スペース250」で、北関東最大の屈折望遠鏡を使った天体観測が楽しめる。ペルセウス流星群や中秋の名月などの特別観望会が毎月催されるほか、5名以上で随時予約可。隣の「フォレスト益子」では食事や宿泊もできる。

☎0285-70-3305(観光商工課フォレスト益子)
<http://www.town.mashiko.tochigi.jp/page/page000702.html>



ラーニングバケーション

益子の自然体験を通して、学びながら休暇を楽しむ「ラーニングバケーション」。イチゴやリンゴなどの果物狩り、ジャム作りをはじめ、そば打ちやビルマ汁作り、綿の摘み取りや無農薬野菜の栽培・収穫など、魅力的な体験メニューがそろそろ。1回限りの参加も可。

☎0285-72-8846(観光商工課)
<http://www.town.mashiko.tochigi.jp/page/dir001304.html>



雨巻山登山

地元で「山頂に雲がかかれれば雨が降る」と言われる雨巻山は、標高533.3mの町内最高峰。栃木百名山の1つで、山内には貴重なブナが残り、日光連山や遠く富士山までも眺望できる。駐車場のある大川戸を起点に足尾山、御嶽山、三登谷山の縦走も可能。春夏は山野草、秋は紅葉、冬は雪が山を彩り、年間を通してハイキングを楽しめる。

大郷戸ダム

「とちぎのふるさと田園風景百選」に認定された町南部の大郷戸地区に佇む農業用ダム。周囲には未舗装ながら車で湖を一周できる道も通り、木道も整備されている。桜や紅葉が植樹された奥の芝生広場は自由に利用できる。



益子町南運動公園

益子駅から約4.5km南にある自然豊かな公園。サッカー場、テニスコート、陸上競技場のほか、ジョギングコースや芝生広場、遊具広場も整備されている。山の上から伸びるロングローラーすべり台や大型遊具は子供にも大人気。憩いの場としても楽しめる。☎0285-72-7985

<http://www.town.mashiko.tochigi.jp/page/page000179.html>



ターゲットバードゴルフ

ゴルフをミニ化したターゲットバードゴルフ場(18ホール、パー72)。初心者から上級者まで、ファッション・レジャー感覚で本格的なゴルフスイングの爽快感を味わえる。用具貸出あり、水曜休。園内には大型遊具広場や野球場なども整備されている。

☎0285-72-9710(あぐり館)
<http://www.town.mashiko.tochigi.jp/sp/page/page000406.html>



益子のイベントカレンダー

Event Calendar of Mashika

Spring
春



桜(安善寺・光明寺)見頃(4月)

4・5月



春の陶器市(4月下旬~5月上旬)

6月



あじさい祭(6/24~7/25)



茅の輪くぐり(6月最終土曜日)

◎ 献花祭(6/24)

◎ ブルーベリー狩り(6月中旬~8月)



Summer
夏



麦畑(6月上旬)

7月



手筒花火(7/23)



御神酒頂戴式(7/24)

◎ やまゆりが見ごろ(7月中旬~下旬)



◎ 祇園祭(7/23~25)



益子夜市(8月中旬)



ひまわり祭(8月中旬~下旬)

8月

◎ 梨狩り(8月下旬~10月上旬)

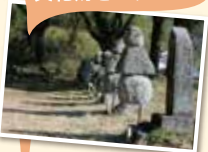


おすすめ
コース3

益子の歴史を肌で感じる
のんびり時間



歴史ロマンあふれる
文化財をたずねて



地藏院・宇都宮家の墓
綱神社・大倉神社・・・



ちょっとお洒落に
カフェランチ



西明寺

車
約10分

登り窯
見学

車
約10分

車
約5分

車
約5分

つかもと
美術館

車
約3分

ましこ悠和館
ギャラリー見学

START



GOAL



益子さんぼ市(9月中旬)

9月

- ぶどう狩り
(9月上旬～10月上旬)
- いも掘り
(9月上旬～10月下旬)



りんご狩り(9月下旬～10月下旬)

10・11月

- 秋の陶器市(11月上旬)



そばの花畑が見ごろ(9月上旬～10月上旬)



コスモス祭(10月上旬～中旬)



里山の紅葉が見ごろ(11月中旬～下旬)



ポターリング益子(11月下旬～12月上旬)

12月

- いちご狩り
(12月上旬～5月)
- トラン益子
(12月上旬)



はが路ふれあいマラソン(12/20前後)



1・2月

- 益子焼初売り
(1/2～6ごろ)



益子の雛めぐり(2月上旬～3/3)

おすすめ
コース4

里山を歩き自然に触れる
ぜいたく時間

小宅古墳群
を散策

益子朝市

くだもの狩り・
いも掘り体験

円通寺

車
約5分

北公園
ターゲット
バード
ゴルフ



車
約10分

ランチ

車
約15分



つりぼり
体験

天体観測
体験

宿泊

徒歩
約5分



雨巻山
登山

車
約10分

車
約10分

START



GOAL



益子の食



Gourmet of Mashiko

益子には、地元で栽培された地粉を使った手打ちそばを出すそば屋、益子焼や古民家を使ったおしゃれなカフェ、地産地消や天然酵母にこだわったパン屋など、この土地ならではの美味しいがいっぱいです。観光農園ではイチゴやブルーベリー狩り、いも掘りなども楽しめます。



ビルマ汁

ゴロっと入った地元産の夏野菜の甘みと、スパイシーなカレー風味が食欲をそそるご当地料理。

ビルマ汁とは



酒造見学

創業70年以上の酒蔵の凛とした雰囲気を楽しめるほか、併設のカフェでは仕込み水で入れたコーヒーも味わえる。

外池酒造 ☎0285-72-0002
<http://tonoike.jp>

益子のお土産

道の駅ましこ

「道の駅ましこ」は、益子の土地で育った新鮮な農産物や加工品、工芸品などの物産を直売する「ましこのマルシェ」、定食をはじめ、その日の美味しい野菜が食べられる飲食施設「ましこのごはん」、観光案内から益子への移住相談ができる「コンシェルジュ」があります。また、企画展示・ワークショップ、オープンスペース貸し出しなども行っています。随時情報が更新されているWEBサイトをチェックしてみてください。

住所 益子町長堤2271 ☎0285-72-5530
営業 9:00~18:00 定休日 第2火曜日

公式WEBサイト <http://m-mashiko.com/>



農産物直売所

採れたての野菜やきのこ、メロンや梨など旬の果物が安く手に入る農産物直売所。地元のお母さんたちが腕を振るうボリュームたっぷりなお惣菜や米粉を使ったお菓子、手づくりアイスクリームなど、直売所ごとにバラエティ豊かな品物がそろう。

芦沼直売所

住所: 益子町芦沼985-2
営業: 土、日
8時~14時

JAはが野益子地区 フレッシュ直売所

住所: 益子町端527-6
営業: 毎日 9時~17時
(元日のみ休業)

農業 体験

よかっぺ郡山本元気村
益子アグリカルチャーカンパニー和の家
益子体験農業MAC
いも掘り

☎0285-72-9777
☎0285-72-8999 [不定休]
☎0285-72-6101 [不定休]
☎0285-72-0396 (山崎)
☎0285-72-2373 (大山)
☎0285-72-0714 (高橋)

益子・七井駅周辺図



益子町中心部



益子町田野・大羽周辺

